

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(10月9日～11月9日の情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。10月9日か11月9日までに19789件の検査がおこなわれました。基準を超えたものは45件でした。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

1. 検査結果の抜粋(10月9日～11月9日の間に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島県	農産物	944	1	野生きのこ	群馬県	農産物	72	1	野生きのこ
	畜産物	1436	0	—		畜産物	2104	0	—
	水産物	698	2	淡水魚		水産物	38	0	—
	牛乳乳児用食品	35	0	—		牛乳乳児用食品	4	0	—
	野生鳥獣肉	33	8	野生鳥獣肉		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	199	6	あんぼ柿等		飲料水、その他	18	0	—
宮城県	農産物	315	3	野生きのこ	静岡県	農産物	11	1	野生きのこ
	畜産物	1808	0	—		畜産物	141	0	—
	水産物	218	0	—		水産物	6	0	—
	牛乳乳児用食品	7	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	67	4	野生鳥獣肉		野生鳥獣肉	2	0	—
	飲料水、その他	23	0	—		飲料水、その他	5	0	—
岩手県	農産物	41	0	—	山梨県	農産物	51	12	野生きのこ
	畜産物	2068	0	—		畜産物	45	0	—
	水産物	207	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	12	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	36	6	野生鳥獣肉		野生鳥獣肉	15	0	—
	飲料水、その他	2	0	—		飲料水、その他	6	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2018年 2月25日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 3月 4日	99.3%	0.7%	0.0%
2018年 3月11日	98.1%	1.9%	0.0%
2018年 3月18日	98.6%	1.4%	0.0%
2018年 3月25日	98.3%	1.7%	0.0%
2018年 4月 1日	99.6%	0.4%	0.0%
2018年 4月 8日	98.5%	1.5%	0.0%
2018年 4月15日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 4月22日	99.2%	0.8%	0.0%
2018年 5月 6日	100%	0.0%	0.0%
2018年 5月13日	100%	0.0%	0.0%
2018年 5月20日	98.0%	2.0%	0.0%

2018年 5月27日	98.3%	1.7%	0.0%
2018年 6月 1日	100%	0.0%	0.0%
2018年 6月 8日	98.4%	1.6%	0.0%
2018年 6月15日	99.2%	0.8%	0.0%
2018年 6月22日	99.1%	0.9%	0.0%
2018年 6月29日	100%	0.0%	0.0%
2018年 7月 6日	100%	0.0%	0.0%
2018年 7月13日	98.1%	1.9%	0.0%
2018年 7月20日	100%	0.0%	0.0%
2018年 7月27日	100%	0.0%	0.0%
2018年 8月 3日	100%	0.0%	0.0%
2018年 8月17日	100%	0.0%	0.0%
2018年 9月14日	99.5%	0.5%	0.0%
2018年 10月 5日	99.6%	0.4%	0.0%
2018年 11月 9日	99.7%	0.3%	0.0%
2017年9月平均	99.6%	0.4%	0.0%

基準を超えた沿岸魚はみつきませんでした。これで180週連続(約3年)となります。福島県の618検体の水産物(海洋)が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介は2検体でした。2検体はいわき市のクロダイ(28 ベクレル/キログラム)ヒラメ(17 ベクレル/キログラム)でした。

(2)検査について基準を超えたものについて

①福島県で捕獲された野生鳥獣について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 福島県会津坂下町:ツキノワグマ(120 ベクレル/キログラム)

イ. 福島県福島市:イノシシ(290 ベクレル/キログラム)ツキノワグマ(140 ベクレル/キログラム)

ウ. 福島県須賀川市:イノシシ(1600,130 ベクレル/キログラム)

エ. 福島県桑折町:イノシシ(200 ベクレル/キログラム)ツキノワグマ(120 ベクレル/キログラム)

オ. 福島県田村市:イノシシ(190 ベクレル/キログラム)

福島県で捕獲された野生鳥獣肉についてはすでに出荷制限措置がとられているため市中には出回っていません。

②福島県で採取された野生きのこおよび淡水魚について基準値を超える放射性セシウムを検出された旨、公表されました。

ア. 福島県柳津町:ナラタケ(210 ベクレル/キログラム)

イ. 福島県伊達市布川(阿武隈川水系):イワナ(220 ベクレル/キログラム)ヤマメ(130 ベクレル/キログラム)

福島県柳津町で採取された野生きのこについては、すでに出荷制限措置がとられているため市中には出回っていません。福島県の阿武隈川の淡水魚についても出荷制限措置がとられているため、市中には出回っていません。

③福島県で加工されたあんぼ柿、干し柿について、基準を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 福島県伊達市:あんぼ柿(210,140,200 ベクレル/キログラム)干し柿(240,200,210 ベクレル/キログラム)

福島県伊達市の柿加工品については、加工自粛しているため市中には出回っていません。

④宮城県で採取された野生きのこについて、基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 宮城県栗原市:コウタケ(370,390,390 ベクレル/キログラム)

宮城県栗原市で採取された野生きのこについては、すでに出荷制限措置がとられているため市中には出回っていません。

⑤宮城県で捕獲された野生鳥獣について、基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 宮城県亘理町:イノシシ(230 ベクレル/キログラム)

イ. 宮城県名取市:イノシシ(120 ベクレル/キログラム)

ウ. 宮城県丸森町:イノシシ(300,140 ベクレル/キログラム)

宮城県で捕獲されたイノシシについては、すでに出荷制限措置がとられているため市中には出回っていません。

- ⑥岩手県で捕獲された野生鳥獣について、基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 岩手県一関市:クマ(210 ベクレル/キログラム)

イ. 岩手県金ヶ崎町:クマ(300 ベクレル/キログラム)

ウ. 岩手県陸前高田市:クマ(160 ベクレル/キログラム)シカ(210,120 ベクレル/キログラム)

エ. 岩手県大船渡市:クマ(110 ベクレル/キログラム)

岩手県で捕獲された野生鳥獣についてはすでに出荷制限措置がとられているため市中にはでまわっていません。

- ⑦群馬県で採取した野生きのこについて、基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 群馬県片品村:シシタケ(150 ベクレル/キログラム)

- ⑧静岡県で採取した野生きのこについて、基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 静岡県富士市:ハナイグチ(200 ベクレル/キログラム)

静岡県富士市で採取された野生きのこはすでに出荷制限措置が取られているため市中には出回っていません。

- ⑨山梨県で採取された野生きのこについて、基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 山梨県富士吉田市:クリイロイグチ(140 ベクレル/キログラム)アイシメジ(120 ベクレル/キログラム)ショウゲンジ(200 ベクレル/キログラム)マツタケ

(110 ベクレル/キログラム)キシメジ(560 ベクレル/キログラム)

イ. 山梨県鳴沢村:ハナイグチ(130 ベクレル/キログラム)アマタケ(110 ベクレル/キログラム)ショウゲンジ(290 ベクレル/キログラム)キシメジ

(630 ベクレル/キログラム)クロカワ(120 ベクレル/キログラム)

ウ. 山梨県富士河口湖町:アカモミタケ(130 ベクレル/キログラム)クロカワ(150 ベクレル/キログラム)

山梨県富士吉田市、鳴沢村、富士河口湖町の野生きのこについては、すでに出荷制限措置がとられているため、市中には出回っていません。

(3)京都の空間線量(10月9日～11月9日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.038～0.041 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.045～0.049 マイクロシーベルト/1時間と

なっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は 0.10～0.11 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.13～0.15 マイクロシーベルト/1時間)となっています。

過去の平均は0.038～0.046 マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、1.5倍くらいの値となっています。

3. 関連情報

(1)福島農産物、生産管理を強化＝風評払拭、流通回復へ

福島県の農家が農産物の安全性をアピールするため、農薬の適切な使用や安全な作業手順など、生産工程の管理を強化している。東京電力福島第1原発事故から7年半、いまだにくすぶる風評を払拭(ふっしょく)し、上向きつつある国内流通に弾みをつけたい考えだ。

▽「GAP」取得、大幅増

福島県と福島県農業協同組合中央会はこのほど、農産物の安全性や環境保全を確保するための「GAP」と呼ばれる生産工程管理の取り組みが進んでいるとして、日本GAP協会(東京)から表彰された。9月7日時点で同県内のGAPの認証取得は86件と、2016年度末の10件に比べると飛躍的に増加。県を挙げた努力が評価された。

GAPは欧州を中心に普及している農業の工程管理手法で、農機具を放置しない、トラクターの整備を徹底する、農薬の使用状況を記録するなど、基礎的な作業改善の積み重ね。ムダが減り経営の合理化が期待

できる上、順守されているという認証を取得すれば、流通業者との取引で有利になるなどのメリットがある。福島や周辺自治体で生産される食品への国際社会の風当たりは強い。日本は食品中の放射性物質について、国際基準を上回る厳しいハードルを設け、国内基準を超過したものは一切流通しない。そもそも近年、超過割合はほぼゼロだが、例えば、いまだに中国は福島や茨城、新潟など10都県からの輸入を停止したままだ。

GAP認証は、2020年東京五輪・パラリンピックで使用される食材調達要件となっている。県の担当者は「五輪へ供給できれば、世界に向けておいしさや安全性をアピールするチャンスになる」(環境保全農業課)と、GAPが風評一掃の足掛かりになると期待している。

▽「産地」より「味」

国内でも敬遠する消費者はゼロではないが、生産者の地道な取り組みや普及に積極的な小売業者の努力により、流通量は回復傾向にある。イオンは6月1日、福島県で水揚げされた魚介類を専門に扱うコーナーを東京と埼玉の計5店舗に開設。同コーナーを含めた5店舗の鮮魚売り場全体の売り上げは前年を約10%上回る好調ぶり、今後、コーナー設置店舗を増やすことを検討している。

有機野菜などの食品通販大手、オイシックス・ラ・大地では震災直後、西日本産の野菜のみを集めたセットの需要がひっぱりだこだったが、最近は縮小気味。担当者は「桃などは福島県産としっかり記載しても他県産より売れることがある。純粹に味の良い商品として求められており、産地を気にする消費者が減ってきたと感じる」と話している。(時事ドットコムより)

以上